

議事録から削除

日銀・黒田総裁「日本国債の大暴落が怖い」

衝撃カラー

独占掲載「ミス日本」ファイナリストが脱いだ!

スクープ袋とじ

小島可奈子 復活ヘアヌード

山本陽子 妖艶ヌードを発見!

あの声はなぜ、耳に残るのか

カラー徹底解剖

「ユーミン」のすべて

カラー

これが「指名手配犯」の顔だ

熱討

小坂明子「あなた」を語ろう

トップドクター 佐々木猛
歯科の名医
が教える

最後まで「自分の歯」
で暮らす方法

ついに動き出した

「株価2万円」ニッポン経済に何かが起きる

5/2

定価420円

Weekly Gendai
2015
May



広島カーブの苦境を救え 天才・前田智徳、ただいま参上!

巷で大論争に

村上春樹さんが「それは違う!」

「原発より交通事故のほうが危険」を考える

「モノクロ」佳子さまを見た、話した、一緒に食事した!

実名公開! この人たちを知らなければ「モグリ」です

「霞が関の有名キャリア官僚」を紹介します

高浜原発再稼働 裁判所のお偉方が「差し止め仮処分はけしからん」

そして、裁判長

樋口英明氏

は飛ばされた

スクープ そんなにヤバいのか!

安倍官邸 大銀行に

シヤープを助けてやれ!

アオガク監督 原晋「箱根駅伝連覇 私はこう考えている」

桑江知子「芸能界 オンナの履歴書」

がん・心臓病・
脳卒中・全身麻酔

医者が「やりたい手術」

「本当はやりたくない手術」

衝撃! 「ミス日本」ファイナリスト 無敵の初ヘアヌード

大反響シリーズ セックスと人間の深淵に迫る

「恥ずかしい」と「気持ちいい」の二律背反構造



がん・心臓病・脳卒中・

全身麻酔……

患者さんには、
言えません

医者が

「やりたい手術」

「本当は

やりたくない手術」

医者の言葉を、そのまま信じていないだろうか。「患者のため」だけを考えている医者ばかりではない。医者には医者の都合がある。最善の治療を受けるために、知っておかないといけないことがある。



病院の判断で設定できるのでオイシインです」

自由診療には、がんの免疫療法から美容整形までさまざまな種類がある。たとえば椎間板ヘルニアの場合、保険が利く外科手術で治療することもできるが、自由診療のレーザー治療を行うクリニックも増えている。

「レーザー治療は、メスを入れずに短時間で終わり、日帰りできる点がメリットです。外科手術をすると、手間暇がかかるわりに保険点数も低くてカネにならない。てつとり早く儲けようと、椎間板ヘルニアのレーザー治療を行っている医者もいます。驚くのはその値段。1回の手術で100万円近く取るクリニックもあるんです。ですが、本来では治療の対象とならない患者まで無理に行つて、トラブルが起ころケースも多いと聞きます」（都内総合病院・整形外科医）

治療費が高い上に、治

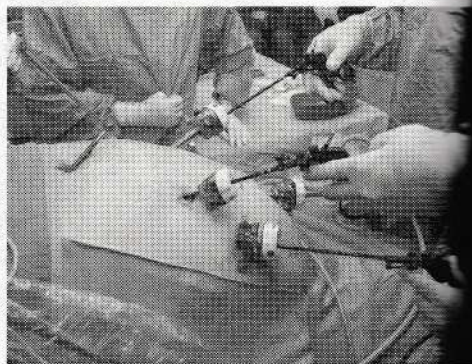
療して後遺症が残つては、たまらない。そんな悪質な医者も中にはいるが、うまくカネ儲けをしている医者は、患者にそれを察知されるようなことは決してしないという。心臓外科医で、東京ハートセンターのセンター長・南淵明宏医師が話す。

「儲けるために行つていく手術でトラブルを起したり、患者を死なせたりしてしまつては、告発されて医師生命にもかかわってきます。群馬大や千葉県がんセンターの死亡例はそういった発想とは程遠いものですが、儲けのことを考えている医者は、ヘマはしないものです」

つまり、失敗しない、

早期の手術で数を稼ぐ

脳卒中の原因となる、脳の動脈瘤についても同様の傾向がある。くどうちあき脳神経外科クリニック院長の工藤千秋医師が言う。



肝臓や膵臓がんの腹腔鏡手術では、死者が続出した

リスクの低い手術をこなして数を稼ぎ、儲けると

いうわけだ。たとえば、内視鏡検査を勧めて小さな大腸ポリープが見つかる度に手術をする、命には別状のない下肢静脈瘤のリスクを強調して手術を勧める、などもそれに含まれるだろう。

「大きくなつて破裂すると、くも膜下出血につながる脳動脈瘤ですが、2mm以下の大きさであれば手術の必要はない。血圧を管理しながら経過観察

することが治療のガイドラインで定められていますが、1・5mm程度でも『大体2mmくらいですね』と患者に説明して手術する病院もある。小さいうちに手術したほうが短時間で済みますし、リスクも少ない。通常は動脈瘤の大きさによって保険点数は変わりませんから、病院にとってはメリットが多いのです。

患者さんからしたら、たとえ小さくても脳卒中の原因があることを画像で見せられたら不安になりますし、『爆弾を抱えたままでいいんですか?』などと医者から言われたら、手術を選ばざるを得ません。セカンドオピニオンが普及して、悪質なケースは減ってきていますが、まだやっていると

ころはあるでしょうね」

脳ドックなどを受けてごく小さい脳動脈瘤が見つかることは多い。治療法だけでなく検査技術も進歩しているため、従来

だったから見逃されていった「見つからなくてもいい病气」が発見され、余計な手術をされる患者が増えているのだ。都内大学病院の消化器内科准教授が解説する。

「乳がんのマンモグラフィーや、前立腺がんのPSA検査でも、放つておいて問題ないレベルの病气が見つかることが問題になっていきます。治療を開始する基準は、ガイドラインで定められていますが、実際のところ、その判断は現場の医師に委ねられています」

「早く見つかつてよかったですね」と言われれば患者としては安心する。悪化する前に病気を治せるならいいと思う人もいるかもしれない。だが、ここにも一つ知っておくべき点がある。同医師が続ける。

「早期発見・早期治療がいいと言われていますが、実際のところ、がんなども含めて、初期に手術を